

ひと・こと・ものとの関わりを深め、社会に視野を広げるための新聞活用のありかた

実践第2年次 長野市立東部中学校

山下 辰也

片山 洋一

テーマ設定の理由

長野市立東部中学校は長野市最大規模の生徒数を有する中学校であり、それゆえに人間関係を築くことが難しいと感じている生徒が多い。教師に指示されたことには素直に聞き入れ行動できる面もあるが、周りを意識するあまり、自分から考えて行動することは苦手と感じている場面がよく見られる。

一方、新学習指導要領では、教育内容の改善事項の第一に「各教科等における言語力の充実」をうたっている。

生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を各教科で行う言語能力の向上に取り組もうとしたとき、教科の学習の中で新聞を利用した学習という手だてが有効であることが期待できる。

そこで、新聞記事を通して、もの・ひと・ことに出会い、自らの課題を考え合うことで、友だちとの関わり合いが生まれ、また社会への視野も広がるであろうと期待し、総合的な学習の時間と社会科の授業で研究を進めるべく本テーマを設定した。

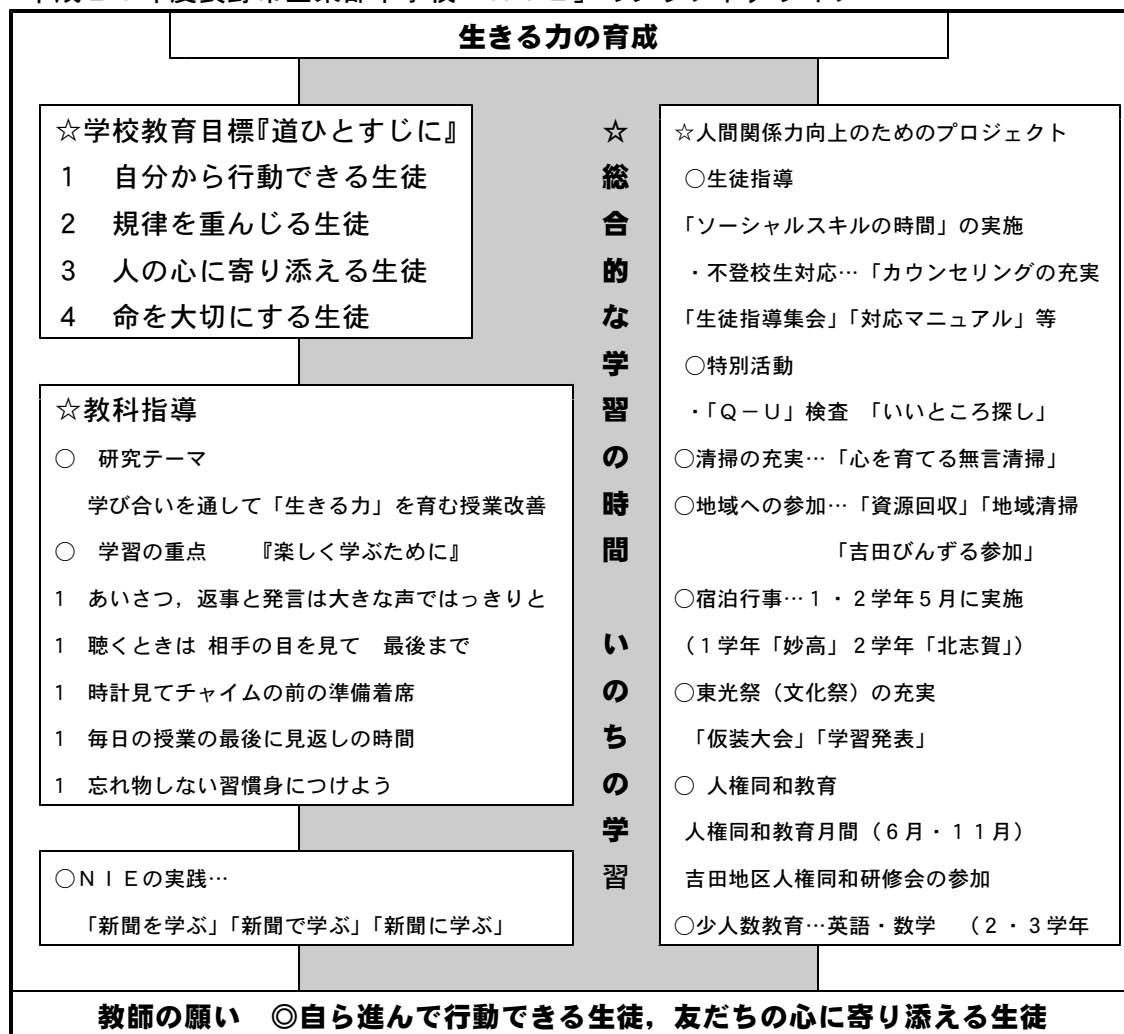
1 本校のN I Eの現状

- ・N I Eの実践指定校として2年目をむかえる。昨年度は、総合的な学習の時間や社会科の時間を中心に、実践を積んできた。その結果、生徒が新聞を読み、社会事象に興味を持てるようになってきた。また、教師自身も、日常の実践の中に新聞記事を活用していこうとする意識が持てるようになった。
- ・本年度、実践学級である3年5組では、総合的な学習の時間で実践を積み重ねてきた。前年度は、平和学習の中で、「焼き場に立つ少年」の写真と記事を題材に、戦争の悲惨さとたくましく生き抜く人間のすごさを学習した。また、広く社会事象に目を向ける視点で、福祉に関わる連載記事を読み、考えを深めることができた。この実践が、N I E全国大会での公開授業につながっていった。
- ・学校体制の中でN I Eの実践をしようと考え、カリキュラムの中に新聞活用の活動を位置づけた。特に、1学年では、全学級でスクラップ作りに取り組み、信濃毎日新聞社主催のスクラップコンクールに参加することができた。

2 N I E実践のねらい

○本校では、以下に示すN I Eのグランドデザインを作成し、新聞活用を全教育活動に位置づけた。

平成 21 年度長野市立東部中学校「NIE」のグランドデザイン



3 研究の概要

(1) 実践した教科など

- ・総合的な学習の時間
- ・社会科

(2) 新聞の提供状況

- ・生徒が最も通行する 1 階廊下にスチール戸棚を設置し、新聞ごと曜日ごとに分けて置いた。生徒は、その場で自由に読むことができるようにした。
- ・ある程度、たまったところで、プラスチックのボックスに入れ、第 2 会議室に保管。必要に応じて使えるようにしておいた。
- ・教頭からの日報や、学級通信などで記事を紹介したり、生徒と関わりのあるものは印刷して配布したりした。

(3) 新聞を取り入れた授業をする上で、特に工夫したこと

- ・取材をしたり、新聞形式で発信したりするための効果的な方法を新聞記者の方に実際に教えていただいた。
- ・発信にあたっては、自分が伝えたいことを持てるような単元展開を工夫した。
- ・経済の問題など、身近なトピックスを取り上げ興味関心を引き出すと共に、広く社会に目が向くように工夫した。

4 具体的実践の紹介

実践① 総合的な学習の時間 本時案

(1) 本時の主眼

デイサービスの施設で体験学習をした生徒が、自分たちの伝えたいことを確認しあったり、新聞の見出しで工夫されていることを知ったりすることを通して、体験で感じたことや学んだことを友だちやデイサービスの方により伝わるように、見出しを考えたり修正したりすることができる。

(2) 本時の位置（18時間扱い中の第16時）

前時：かがやきデイで体験したことをや学んだことをまとめ、ポスターの制作を始めた。

次時：まとめたものを、学年や学校へ発信する準備をする。

(3) 指導上の留意点

- ・グループ活動の中で、個が埋没しないよう、少人数（4名程度）で活動させ、各自の意見がポスターに反映できるようにする。

(4) 本時の展開

	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援・☆評価	時	備考
導入	1 かがやきデイで、体験したり初めて知ったことを確認する。 「お年寄りの気持ちについて、お話を聞いてきた。」 「介護士の仕事について調べてきた。」 「デイサービスの施設について調べたり、聞いたりしてきた。」 「お金のことについても、インタビューした。」	1 7月9日のかがやきデイの活動を中心に、追究してきたことを想起させる。	5	
展開	2 友だちやデイサービスの方に見てもらえるよう、新聞制作の続きをする。 「記事はけっこうできてきたぞ。」 「読み手を引きつけるためにどうすればよいのだろう。」 「見出しを工夫したいな。」	2 より相手に伝わる新聞にするために、見出しに着目させる。	5	
学習問題	伝えたいことがより伝わる見出しを作ろう			
開	3 自分たちが作った新聞記事で、伝えたかったことは何か、確認する。 「お年寄りと話したことで、お年寄りが喜んでくれた体験だ。」 「介護士の仕事の大変さを伝えたい。」 「財政面で、あまり補助がないことを知っ	3 新聞記事で伝えたかったことをグループごとに確認させる。	5	学習カード

	てもらいたい。」		5	
	4 実際の新聞の見出しから、工夫されていることを見つける。 「10字くらいで端的に書いてある。」 「読者を引きつけるインパクトのある見出しだ。」 「問題を提起しているな。」	4 実際の新聞記事を見て、どのように見出しが付けられているか、工夫点を見つける。	5	新聞記事
	5 自分たちの新聞記事に見出しを考えてつける。 『『おじいさんの優しい笑顔』は、どうか。』 『『介護体験で学んだこと』から『体験！介護の現場から』に変えよう。』 『『これでいいのか？介護制度』で、問題を提起してみよう。』	5 伝えたいことがより伝わるよう、新聞の見出しを参考にしながら、自分たちの記事に見出しを考える。 ☆協力して見出しを考えられたか	12	新聞作成用 画用紙 マジック
終 末	6 作った新聞で学んだことを発表する。 「インパクトのある見出しができた」 「新しく発見したことを中心に発表しよう」 「お年寄りとの交流から学んだことを伝えたい」 「介護現場の課題について提案しよう。」	6 グループの代表に発表させる。 ☆体験したり学んだりしたことをわかりやすく発表できたか。	12	拡大投影機 スクリーン
	7 発表を聞き、疑問に思うことや意見があったらカードに書き、発表する。	7 グループの発表を聞き、感想を記入させる。時間があったら、数名に発表させる。	6	

実践② 社会科本時案

(1) 本時の主眼

江戸時代の文化と現在との関わりをジャンル別にまとめた生徒たちが、ポスターセッション形式で発表したり、質疑応答をしたり、発表を評価するという活動を通して、江戸時代の文化が現代にもつながっている理由を考えることができる。

(2) 本時の位置

前時：文化の内容と現代とのつながりを中心にポスターにまとめ、発表の準備をした。

次時：2つの文化の社会的背景の違いを比べ、化政期になると禁止や処罰が増加する理由を探る。

(3) 指導上の留意点

- ・質疑応答が停滞しているグループについては、教師が質問を用意する。

(4) 本時の展開

段階	学 習 活 動	予想される生徒の反応	支 援・評 価	時
導 入	1 「英語の俳句を募集」という新聞記事を読む。	・山形では英語の俳句を募集しているんだね。 ・英語だと17文字では無理なんだね。	1 新聞記事を提示し、日本の文化が世界にも広がっていることに気づかせる。	5
展 開	2 ポスターセッションによる発表、質疑応答をする。 前半、後半とも質疑応答、評価カード記入含めて8分ずつを2回。	例1 <u>元禄文化 文学グループ</u> ・「芭蕉の弟子、河合曾良300回忌」(新聞記事) →松尾芭蕉の研究者、吉田出身の「何丸」について伝えたい。 例2 <u>化政文化 美術グループ</u> ・「新聞広告に使われた葛飾北斎の浮世絵」 →あの有名なゴッホという人が浮世絵を何枚も写すほど世界に通用していたことを伝えよう。	2 ポスターセッションによる発表をさせる。 聞く側には評価カードを配り、質疑応答が終わったら、評価カードに記入させる。	40
ま と め	3 江戸時代の文化が現在の生活にも身近に見られる理由をまとめる。	・江戸時代に今の生活や文化のもとができたんだ。 ・江戸時代の多くの文化が日本らしさとして今でも大事にされてきたんだなあ。	3 今日の学習を通して江戸時代の文化が今でも継承されてきている理由をまとめさせ、2～3人に発表させる。	5

(5) 今まで蓄積してきた江戸時代に関する新聞記事(見出し)

- ・善光寺御開帳関連 ・本因坊直筆「囲碁の心得」・大鹿歌舞伎
- ・与謝蕪村の屏風絵76年ぶりに確認 ・信濃町信州鎌(コラム)
- ・一茶の「句日記」新発見 ・松代藩家老の位牌発見
- ・NHK大河ドラマ「保科正之」ならず ・芭蕉の弟子河合曾良300回忌
- ・小林一茶(コラム) ・本物の「江戸小判金」(広告)
- ・北斎の「神奈川冲浪裏」を使った広告 など

5 研究のまとめ

(1)総合的な学習の時間

①本時の授業から

体験があるからこそ、見出しを考える効果が出ていた。授業後半のグループの話し合いはとてもよかった。実際に、信濃毎日新聞の見出しから、「いい見出し」の手本とその効果を学習し、話し合いの中から自分たちの見出しを見直す学習が成立していた。また、生徒たちが書いた記事の内容が充実していた。かがやきデイでの貴重な体験があつてこそ、

本時が成立していた。グループの人数も4人で、一人ひとりが活躍する場があった。また、お互いの考えの良さを知るよい学習の場となっていた。

見出しの例として夕刊を取り上げたことも生徒たちには有効であった。一面の記事の数がそれほど多くなく、見出しや割付を参考にするには適していた。

一方、話し合いが活発にできていないグループもあった。リーダー育成と共に、教師の適切な出も必要であった。

②研究全体を通して

NIE全国大会という大きな発表の場であったが、背伸びをしない研究授業でよかった。NIEを目的ではなく、一つの手段としてとらえ、よい研究ができていた。NIEにより、実社会と自分とのつながりが持てていた。

2学年（社会）、3学年（総合的な学習の時間）の授業だけでなく、1学年のスクラップコンクールへの取り組みもとてもよかった。授業学級だけでなく、学年や学校全体でNIEの研究に取り組めたことがよかった。

(2) 社会科

社会科における新聞活用の実態を見ると、新聞が、現在世界中で起きている事実の報道である性質上、地理や公民の分野での活用が多く、歴史の分野での実践は少ない実情がある。また、「歴史は、暗記をすればよい」という認識の生徒が多いのが現状である。さらに、文化史の学習について言うと、歴史学習の中では最後に回され、作品と作者の名前を覚える程度である。今回の研究では、歴史に関する新聞記事に着目し、今と昔をつなげるという視点で実践を積むことができた。

生徒たちは、約半年にわたって「江戸」をキーワードにして新聞のスクラップを行った。それぞれの生徒が自分なりの足場をもって授業に臨むことができ、その足場を基に意見を活発に述べ合うことができた。この実践から、生徒が主体的に歴史学習に取り組むことができると共に、歴史と新聞、昔と今のつながりにも視野を広げることができた。さらに、生活習慣や地域の祭りなど、身近な文化や歴史にも触れさせると、相乗効果が得られると考える。

6 残された課題

本年度は、NIE全国大会という機会があったため、学校全体での取り組みが可能であった。この研究をきっかけに、生徒の視野を広げたり、興味関心を高めたりすることが可能であった。来年度以降、新聞の供給やカリキュラムの運営について制約が出てくると思われるが、本年度の成果を基に、可能な限り新聞を活用して授業を進めていきたい。特に、1学年で行ったスクラップ作りの実践では、グループでの共通の話題や記事を選択する活動を通して、仲間作りを進めることができた。人間関係の育成は、本校の課題の一つであり、新聞活用を通して、学級集団や仲間作りができたことは大きな成果といえる。来年度以降も、この取り組みは続けていきたいと考えている。